発行№119　無限の可能性を追及する青春金物店　日本一金物　発行月日10月20日

果物・盛籠・缶詰
株式会社 丸原 原青果
函館市中島町3-23
電話 55-8778
FAX 55-1116

# 2006 トピックス 11月号
# まいどうさん

株式会社 日本一金物店

家庭電気・灯油
有限会社 丸山燃料店
函館市新川町33-5
電話 22-5307
FAX 22-3766

「まいどうさん」です。日頃は何かとご愛読賜りありがとうございます。

来月は、百二十回目の発行となります。変わらぬ、ご愛読お願い致します。

連日のように報道される、親子関係の破綻や子どもの虐待、そして学校内でのいじめ、その為幼い命を自ら絶ってしまうという悲しい出来事、親としてはやるせなく口惜しい思いだろうと心痛、察するにあまりある思いがいたします。

先日では先生自ら、いじめの口火を切るという考えられないことが発生しました。いつからこんな世の中になってしまったのでしょう。

ノーベル平和賞者であるマザー・テレサ氏は生前来日した際に、日本の青少年の様子を見て、「富める国、されど貧しき人々」と言ったそうです。

経済的に、富んでいても、人々の心は貧しいということです。人間としてもって生まれた本能ではないでしょうか。犬や猫でも、襲ってくる敵には親は命がけで守ります。人間はそれ以下なのか？なんと腹立たしい。

今こそ私たちは、家族の絆や、人間関係の信頼関係を、真剣に見つめ直していかなければならないと思うのですが。

---

**毎度ありがとうございます**（前号から）

右も左もわからぬまま入社し、水飴、羊かん、塩豆等の製作工場で、社員8名が、それぞれ工場で働いている他、営業が2人。皆に使われるからたまったものではない。

昼時、弁当を広げた途端、「ひろし、タバコ買ってきてくれ」と言われ、近所のタバコ屋に走る。買って帰ってきたら、「あぁ、俺もタバコきらしてた」また走る。一日吸うだけ、持ってれはいいのに、と思いながらも先輩の言うことを黙って聞く。その時考えた。給料を貰ったら、タバコを買ってロッカーに入れておこう。言われても買いに走らなくてもいいように。

そんなことから、ささやかな小遣いがタバコに化ける。

「ひろし、タバコあったよな」ロッカーから出して一個渡す。「今、こまいのがないから、後で払うようなら」だが、なかなか払ってくれない。催促もしづらいし困ったものだ。だがロッカーは鍵を掛けてるわけではないから、まだそれならいい方だ。

黙ってロッカーから持ち出して吸ってる先輩もいる。そんなことから煙草の買い置きはやめにした。でも、優しい先輩もいて、使い走りで用を足すと、十円の駄賃をくれる先輩もいたりで。とにかく先輩八名から仕事を言いつけられる。ずんずん慣れるに従って、先輩たちのする仕事を察知して、言われる前に用具や物を揃える。

数カ月は、こまねずみのように働いた。先輩から「目から鼻に抜けるような奴」と言われたが、当時は「すばしっこい奴」と解釈し悪口と思っていた。

半年過ぎた頃、水飴の空き缶を回収する仕事を言いつけられた。その頃、道産製菓や国産製菓、市内の飴玉やさんへ水飴を加工してタンキリ飴などを作っていた工場へなどを、自転車にリヤカーを着け回収して歩いた。

（次号に続く）

若さと美貌と知性を兼ね備えたレディーたち
今宵のロマンをハートに秘めて
宴会パーティー祝賀会 企画します
(有)パンケットジャパン
お電話 FAXお待ちします
TEL59-4177　FAX57-1966

函館KGカントリークラブ・18H
GSP乗用カート導入　Tel 54-4111
リニュアール オープン　Fax 55-2451
函館KGパブリックコース 9H
函館KGパークゴルフコース 36H
新設オープン 電話54-4110

(有)花の店 花昇
函館市新川町35-7 TEL26-2617

(有)本吉 クリーニング店
函館市富岡町2-56-17 TEL41-2439

# ☆今月の特価品とお知らせ☆

## ▼伊達政宗、悲劇の父親殺しをきっかけに領地を拡大！

伊達政宗にまつわる有名なエピソードに「悲劇の父親銃殺事件」がある。一五八四年、家督を継いで間もなく政宗は、対立していた近隣の二本松城主、畠山義継の軍を進めて、翌年十月七日二本松城攻略の軍を進めて、翌年十月七日二本松城を攻めた。その翌日、畠山義継と和睦が成立し、宮森（現在の福島県安達郡岩代町）に表敬訪問にやってきた伊達家の陣所に、政宗の父親の輝宗が応対した。短い会見のあと、帰りがけ義継が、輝宗の首に刀を突きつけ、担ぎ上げるように馬に乗せて逃げ出した。「鉄砲隊を連れてきた！」と知らせるも、輝宗が「いっか撃て！」と叫んだ。政宗は涙を飲んで人質にされた父親もろとも撃ち殺したという。

義継も少人数で応対したが、家老三人だけで、安心しきっていたのだ。義継の供は、最初から輝宗を狙っていたのだが、そのつもりの謀略だったのか、不穏な動きを見せかけて、伊達側が仕掛けた、大義名分をつくった。

「ざまを見ろ、義継が輝宗を殺したぞ！」と、父の仇討ちを果たした政宗。領土入れをめぐって、父の仇討ちを果たした政宗。領土入れをめぐって、父の仇討ちを果たした政宗。領土入れをめぐって